

第133号/ ふじのくに静岡県



消防学校 ニュース



令和4年11月号

救助科(第39期)

～あらゆる災害に立ち向う～

令和4年10月5日(水)～11月2日(水)の約1か月間、救助科を実施し、県内16消防本部(局)から45人が入校しました。

台風15号の影響で消防学校も断水が継続していたため、最初の2日間はオンライン講義に変更し救助科がスタートしました。

救助業務従事者として専門知識と高度な技能・技術を備え、多様化する救助災害事案の対応力強化に重点をおき、安全管理を図りつつ応用力を発揮できることを目標に、県内外の消防本部(局)の救助隊員に座学や訓練指導に御尽力をいただいたほか、民間企業・団体などの協力を得ながら、厳しく、密度の濃い教育訓練を実施しました。

オンライン講義



実火災体験型訓練



強制ドア解放



交通救助(廃車を利用した実践的訓練)



現場指揮要領（小・中隊長訓練・無線運用）



都市型検索救助（クリッピング・ブリーチング）



ロープレスキュー



火災救助 I（VEIS 救助・ホース携行検索）



火災救助Ⅱ：緊急時対応（ファイヤー・ファイター・サバイバル）



震災時対応救助（校外研修：藤枝消防署）



土砂災害対応救助（土砂災害対応訓練施設）



学生企画訓練（企画運営・実施・評価）



校外研修：JR 東海・あいおいニッセイ同和自動車研究所

災害救助犬静岡



(担当教官コメント)

入校生は21歳～36歳と年齢及び経験値の幅は広がりましたが、基本から応用訓練に至るまで年齢に関係なく活発な意見交換が見られ、コミュニケーションが取れていた期であったと感じます。オンライン形式でスタートし、入校後の雰囲気が心配でしたが訓練を重ねるごとに団結力が結成され、主体性を持ち、訓練だけでなく準備から片付けに至るまで積極的に行動し、私にとっても見習うべき姿を見させていただきました。各講師や教育支援隊の方々から、様々な講義及び訓練を受け、多くの「気づき」を得たことでしょう。

救助科で得た「知識・技術・気づき」を各所属に還元し、時代と共に変化していく救助技術に取り残されないよう今後も情報共有を行い、御活躍されることを期待しています。

最後に、救助科第39期に御支援、御協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。

教務課主査 早川 淳（磐田市消防本部から派遣）

初級幹部科・救助科合同(多数傷病者対応訓練)



学校だから大規模訓練が出来る! 総勢60人 共通認識・情報共有!!



上級幹部科(第21期) ～部下や組織を守るリーダーに～



令和4年10月12日(水)～10月14日(金)の3日間、上級幹部科を実施し、県内10消防本部(局)から11人が入校しました。

社会情勢が変化していく中、消防が直面する多くの課題に対し、効果的な消防行政を推進していく必要があります。組織全体を円滑に管理運営するため、管理職の役割(リーダー論)、人事管理(ペップトーク)、業務管理(消防行政、訴訟問題、報道対応)などの講義で知識や考え方を学ぶとともに、事例研究において積極的な意見交換を行いました。

(担当教官コメント)

本教育訓練では、所属の組織運営や御自身の将来像を描く上で役立つ教育となるよう、消防長をはじめとした現役のリーダーの皆様による講義やペップトークなど、様々な内容を組み合わせていただきました。管理職として多くの課題に直面されることと思いますが、学校での教育や同期の絆が解決のヒントになれば幸いです。

教務課主査 谷澤 俊光(県職員)

初級幹部科(第24期) ～己が育ち 人が育つ～



令和4年10月17日(月)～10月28日(金)の10日間、初級幹部科を開催し、県内10消防本部(局)から組織の中核を担う15人が入校しました。

自隊の管理や部下指導といった組織体制の基盤強化を主眼に、人事業務管理、消防時事、安全管理等に係る講義や、日々変化するさまざまな災害に求められる知識や技術の習得を目的に、火災対応訓練、濃煙熱気実火災訓練、多数傷病者対応訓練など多岐にわたる教育訓練を実施しました。

(担当教官コメント)

今回の教育訓練では、中堅を担う職員として、自らのスキルアップに加え、若手育成や自隊管理という視点で臨んでいただきました。

初級幹部科での学び、学生間でのディスカッションなどを通して、課題の共有やさまざまな気づきを得られたのではないかと思います。

今後の業務へ活かすとともに、若手育成へのきっかけとなっただけであれば幸いです。

皆様の御活躍を期待しております。

教務課主査 永田 裕司 (菊川市消防本部から派遣)

消防団員現場指揮課程(第9期) ~自ら考え行動する~



令和4年10月30日(日)に指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内の消防団員57人が参加しました。本課程では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた宿泊を伴う研修日程を見直し、動画配信と単日開催としました。

座学については、静岡県消防協会の松浦会長、静岡大学の牛山教授の講義などを動画配信し、開催当日は実科訓練中心の研修内容としました。主な内容は、火災現場で指揮を執るために必要な、指示・命令の伝達要領や、各ブースに分かれての消防活動、重量物除去、破壊機具、オフロードバイク及びドローン取扱い訓練など、多岐にわたる内容となりました。

(担当教官コメント)

指揮活動の基本として「実態把握、状況判断、決断、命令、実行、報告、評価」の指揮のサイクル等を学び、参加した各団員にとって指揮の大切さを認識して気が引き締まったようです。

災害現場で指揮者として指揮をとる一連の訓練は、「持っていた知識が一変した」、「声掛けする重要性を学べた」「自分団でもこの訓練を行いたい」等の声をいただき、担当として嬉しく思います。

各団員とも積極的に訓練に取り組んでいただき、学びの多い訓練となりました。本課程で学んだ知識、技術を各所属へ持ち帰って地域防災力の向上に役立ててもらいたいと思います。

教務課主査 飯塚 誠 (静岡市消防局から派遣)

県新規採用職員研修

～静岡県は私たちが守る～



規律訓練



濃煙避難訓練



救急実技



ロープ結索訓練



屋内消火栓による放水訓練



消火器による消火訓練



体力練成



令和4年10月5日（水）から10月7日（金）まで、県の新規採用職員205人の後期研修が実施されました。

大規模地震等の様々な危機対策において中心的な役割を担う県職員としての自覚を促すことを目的に、各種訓練を実施しました。

研修生は、初めて臨む訓練に戸惑いながらも、仲間と協力し精一杯取り組みました。訓練終了時には、各人の行動はきびきびとし、顔つきも引き締まり、災害時に県民から信頼される県職員としての心構えを改めて学んだことと思います。

(担当教官コメント)

研修生は、県職員として様々なかたちで災害対応に当たることとなります。この研修が新規採用職員の意識を高めるための一助となれば幸いです。

教務課主任 高橋 謙一（県職員）

台湾内政部消防署訓練センター研修



歓迎式



台湾 李団長挨拶



集合写真



施設見学



意見交換会



講義



ブラインド型指揮能力向上訓練



緊急時対応訓練

新型コロナウイルスの感染拡大により中断されていた台湾内政部消防署訓練センターの教官等に対する研修を、3年ぶりに実施しました。

李名憲（り めいけん）団長以下13人は、10月24日（月）から10月28日（金）まで学校に宿泊して教育訓練を受けました。日本の消防技術や知識を習得するため、訓練等では熱心に質問をし精力的に取り組んでいました。コロナ禍で校外に出られない行動制約がある中、教育訓練を通じて、教官同士交流を深め、相互に大変良い刺激を受けました。

（担当教官コメント）

日本は各都道府県に消防学校が設置され、消防職団員に教育訓練を実施しています。台湾の消防教育機関は国立の内政部消防署訓練センターのみであり、初任科教育をはじめ専科教育等を実施しています。

来日数か月前から、ビデオ会議等を実施し訓練準備を進めました。台湾から指揮活動と安全管理を中心とした、指揮官の養成を主に教えてもらいたいと要望がありました。そこで、指揮活動を中心としたカリキュラムを考え、最終的に現場活動要領と訓練の実施要領を習得できるものとなりました。

台湾消防は世界中の消防を研究していて、知識、技術、訓練は高い水準にあります。しかし、日本の安全管理、指揮要領には多くの「気づき」があったようです。逆に、私も沢山の「気づき」をもらいました。消防の目的は世界共通であり国境などありません。今回の訓練では、お互いの優れたところを吸収し合うことができました。短い教育訓練でしたが、台湾の安寧秩序を保持することの一助になればと願っています。

教務課主査 田島 貴俊（富士市消防本部から派遣）

教官紹介 [山田教官]



山田教官は、静岡市消防局から教官として派遣され2年目となります。常に、相手の考えをよくきき尊重し、厳しい言葉の中にも、温かい想いを込めて指導している、娘が原動力の心やさしい教官です。

～高倉校長と山田教官との面談から～

校) 2年目となり、教官業務をどのように考えていますか。

山) 講師への依頼等、県の事務処理の仕組みが分かるようになったため、自ら教育訓練の企画が出来るようになりました。しかし、学生に習得してほしい内容や自分の思いを言葉にして正確に伝えることは難しく、これで最適かを常に自分に問いかけ試行錯誤しながら、日々勉強しています。言葉一つ違ふと、学生が違う方向へ進んでしまう怖さを肝に命じ、資質向上に取り組んでいます。

校) 他の教官から影響されている事はありますか。

山) いろいろな事を追求する姿勢、質問をすれば的確に答えてくれる知識や技術の深さに刺激を受けています。自分も、他の教官と同じように、「教科書」の様になりたいと思っています。

校) プライベートで何か趣味はお持ちですか。

山) 身体を動かす事が好きで、家族を巻き込んで運動しています。現在、市内の社会人チームに入り、サッカーをしています。サッカーは見ることも好きで、エスパルスの熱烈なファンです。

高倉校長から一言

山田教官の教官たる理想像は、日々探求の中にあるようですが、赴任期間の半分を経過する中で、理想を具現化し、集大成の3年目に向かわれようとする気概を感じます。家庭ではお嬢さんが癒やしであり、一時期はスタンド席で応援旗を手にされた程の生粋のエスパルスファンだそうです。さぞかし、今期の成績には落胆をされているかと思いますが、今月はサッカーW杯が開幕しています。日本全体が代表の応援モード。日本代表も残すはスペイン戦、決勝トーナメント進出を祈っています。

かつて2002年日韓共同開催ではエコパも会場のひとつで、私は県出向の組織委員会職員として開催に従事しました。準々決勝のイングランドvsブラジルでは、ピッチに降りてメディア対応しており、試合に負けたイングランドのベッカムがユニホームを脱ぎ、サポーターへの挨拶にゆっくり場内を一周したことが印象深いです。目の前のベッカムに上着に隠していたデジカメで至近距離からのショットを頂こうかと衝動に駆られた記憶があります。当時のボランティアさんとは2019年ラグビーW杯時にエコパで再会、ボランティア活動をいただきました。



←2002年エコパスタジアム大会運営室にて

左：自分と同じく静岡県から出向
大会組織委員会本部在籍時の福永秀樹氏
(現：県スポーツ協会常務理事)

右：大会組織委員会静岡支部(エコパ駐在)在籍時の筆者

編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

